

平成 21 年度全国学力・学習状況調査における鴻巣市の結果の概要【中学校】

鴻巣市全体の傾向

全国・県とも多くの項目・領域において、正答率が昨年度よりも伸びておりますが、本市の生徒の結果は、中学校調査の全ての項目・領域において全国・県平均を上回っています。

中学校国語について

中学校数学について

国語A (知識)

調査結果は、全国平均 77.0、県平均 76.5 に対して、本市平均は 79.6 と高い状況にあり、2.6~3.1 ポイント上回っております。特に本市の生徒は、「話すこと・聞くこと」の平均正答率は極めて高い傾向にあります。

「書くこと」の平均正答率はやや低い傾向にあります。

国語B (活用)

調査結果は、全国平均 74.5、県平均 74.2 に対して、本市平均は 77.6 と高い正答率となっております。

「関心・意欲・態度」「書くこと」は、昨年度よりも高く伸びております。

「書くこと」の中では、自分の言葉で書くこと、分かりやすく書くことに課題があります。

数学A (知識)

調査結果は、全国・県平均を 2.3~3.4 ポイント上回る高い状況にあります。特に「数量や図形の知識・理解」では、多くの生徒が内容をよく理解しています。

「数量関係」は、正答率があまり高くなく、本市生徒の課題といえます。

数学B (活用)

調査結果は、全国平均 56.9、県平均 55.9 に対して、本市平均は 60.6 と極めて高い状況にあり 3.7~4.7 ポイント上回っています。中でも「数量・図形などについての知識・理解」が高く、端的に答えることは得意な傾向です。

知識を生かし考えを深め「数学的な考え方」を身につけていくこと、文字や言葉で自分の考えをまとめ表現していくことに課題があります。

質問紙調査から

(国語の学習について)

全国平均値よりも「国語が好き」である生徒の割合は高い。また、「国語の勉強は大切」と捉えている生徒が多く、国語学習の意義を理解しています。

国語の力と関連の深い「読書好き」の割合も高い。さらに生徒は、意識して自分の考えを話したり、分かりやすく話したりしようとしています。

(数学の学習について)

「数学が好き」が全国平均より低いが、「数学の勉強は大切」と捉えている生徒の割合が高く、数学を学ぶ意義を多くの生徒が理解しているといえます。

困難な問題に対しても粘り強く考え、いろいろな方法で解決したり、生活の中で活用したりしていこうとしています。

学習指導改善のための今後の方策

(国語)

今後も知識として得たことを、学習・生活の中で効果的に活用できるよう指導していきます。資料の中から必要な内容を選び、伝えたいことが明確に伝わるように書くこと、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うこと、読み取った内容をもとに、自分の考えを条件にあった表現に直していく等の活動を通して、分かりやすく書く力を高める指導を工夫していきます。

(数学)

考え方の基礎となる知識や端的に答えることが得意な反面、数字や文章を用いて、示された条件のもとに理由付けをしたり、分かりやすく説明したりする力を高めていく必要があります。

特に図形については知識として得たものを、効果的に活用できていない傾向にあるので、基礎の部分を大切に扱いながら学んだことを生かし、自分の力で立式したり、自分の言葉で説明したりする機会を授業の中に、意識的に取り入れながら繰り返し指導していくよう取り組んでいきます。